

## 中国で波紋呼んだ「ポケモン靖国騒動」



山 哲郎  
島 トモスター

今からちょうど30年前、携帯用ゲーム機「ゲームボーイ」のソフトとして登場した「ポケモンマスター（ポケモン）」。アニメ、カードゲームなどさまざまなジャンルに展開し、中国でも「宝可夢」の名前で親しまれている。

そのポケモンに絡んだ騒動が1月、中国で巻き起こった。関連事業を手がける「株式会社ポケモン」（東京都港区）が運営するウェブサイトに、東京・九段北の靖国神社で1月31日、ポケモンのカードゲームのイベントを開催するという告知が掲載されたためだ。

靖国神社には極東国際軍事裁判（東京裁判）のA級戦犯が合祀されている。中国は、日本の首相による靖国神社への参拝に反発してきた経緯がある。今回も、中国の交流サイト（SNS）上で、「子供たちに軍国主義を植え付けようとしているのか」と懸念する声が上がった。

中国メディアも反応した。中国紙「環球時報」は1月30日付の社説で、「靖国神社は日本の軍国主義

の象徴だ。そこで行われる娯楽やレジャーの活動は、歴史の真相に対する公然とした侮辱だ」と批判。株式会社ポケモンなどに説明と謝罪を求めた。

株式会社ポケモンは同日、ウェブサイトに日本語と中国語による「おわび」を掲載。開催告知を取り下げ、イベントは中止になったと明らかにした。

ウェブサイトに掲載したイベントは、カードゲームの認定資格を持つ個人が主催するものだったが、「今回、本来開催すべきではないイベントであったにもかかわらず、確認不足により誤って掲載してしまいました」と釈明。謝罪した上で「再発防止に努めてまいります」とつづった。

台湾有事を「存立危機事態になり得る」とした高市早苗首相の2025年11月の国会答弁を巡り、中国共産党・政府は「軍国主義の復活」と日本を批判し、国内外で宣伝戦を展開している。今回の騒動も、こうした流れの中で巻き起こった。

文化は国と国とをつなぐ懸け橋にもなる。日本発のポケモンのイベントが中国で波紋を広げる結果となったのは残念だったが、騒動後も北京のグッズ店は変わらず繁盛しており、胸をなで下ろした。